

# 2024 年度日本気象学会東北支部臨時理事会 議案

日時：2024 年 8 月 21 日（水）～9 月 20 日（金）  
（書面開催による）

## 議題

本部事務局から、第 43 期第 1 回支部長会議（2025/1/30 予定）で、昨年度の第 42 期第 2 回支部長会議（2024/2/2）で佐藤薫前理事長からの『各支部長から各支部において気象庁職員の中の気象学会会員が減ってきている、残っている会員も年齢が上がってきていて先が不安であるという声が多数聞かれた。現在気象庁所属の会員を中心に各支部の事務局を運営していただいているが、これを気象庁に依存しない体制に変えたとしたら、どのような運営が可能だろうか。』の発言を受け、以下①～④について、各支部で話し合っていた結果をご披露いただきたいと連絡があった。

- ① 気象庁に依存しない体制に変えたとしたらどんな運営が考えられるか。
- ② 支部事務局の運営の理想形はどのようなものか。
- ③ 経費の負担はどのようなものを希望するか。
- ④ 各支部でどのような活動を継続・発展させていきたいか。

このことについて、これまでの理事会で出た意見等から以下のとおり報告案を作成したので、これについてご意見等いただきたい。

## 【報告案】

- ① 気象庁に依存しない体制に変えたとしたらどんな運営が考えられるか。

気象台の業務は地域防災関係にシフトしてきており、学術的なほうに近い大学関係者の方などに応分の負担をお願いする形が望ましいという意見もある。一方で、大学側の人員も潤沢ではないため、地方の身の丈にあった形で出来るところを行うことが望ましいと考える。また、支部事務局の雑務の一部を業者委託することも考えていく必要がある。秋季大会の事務局作業については、大会の間隔が 10～11 年周期と間隔が広がるとノウハウの継承がほぼない可能性が高いため、地方でしか出来ないこと以外は本部で行う形にすることが必要と考える。

- ② 支部事務局の運営の理想形はどのようなものか。

支部事務局の雑務の一部を業者委託する、または地方でしか出来ない作業以外は本部で行うなど作業分担し、出来る限り気象庁に依存しない独立した体制が理想形と考える。

- ③ 経費の負担はどのようなものを希望するか。

これまでどおり、気象講演会、サイエンスカフェ、気象研究会等イベント開催にかかる諸経費（会場費、必要な機材費、旅費、謝金等）は希望するほか、これまで気象台職員の間負担となっていた事務局雑務の業者委託について経費負担を希望する。

**④ 各支部でどのような活動を継続・発展させていきたいか。**

気象講演会やサイエンスカフェなど地域住民への気象に関する普及啓発活動については継続していく必要があると考える。また、気象研究会については、気象台の東北地方調査研究会と合同開催しており、研究部門と現業部門双方の問題意識等について相互理解を深める貴重な機会となっているため、継続するのが望ましいと考える。年2回紙媒体で発行している支部だよりについては、経費削減の一つとしてペーパーレス化し、内容を充実させていきたい。

以上